

# 時局に思う



## 日本遺族会会長 参議院議員

### 水落敏栄

十月十三日、宮内庁より天皇皇后両陛下が国交正常化六十年となる来年始め、フィリピンを訪問されることと発表された。先の大戦の激戦地であったフィリピンでは、海外で戦没された地域で最多の五十二万人が戦没されている。国交回復から六年後、皇太子夫妻として同国を訪問されたが、天皇皇后としての訪問は初めてとなる。現地で

は両国の戦没者慰霊が検討されており、遺族として感謝にたえません。

また、二十日には皇后様の八十一歳の誕生日の会見で、陛下が長年願っておられたパラオご訪問での慰霊に胸がいっぱいになったとお言葉を寄せられました。また平和な今の時代を生きる人々が戦時に思いを致すことは決して容易ではないと思うが、次世代、その次の世代が各種の展示場を訪れ、真剣に戦争や平和につき考えようと努めていることを心強く思っていますと寄せられ、愛子様は夏の宿題で戦争に関する新聞記事を集められたことなどに触れました。

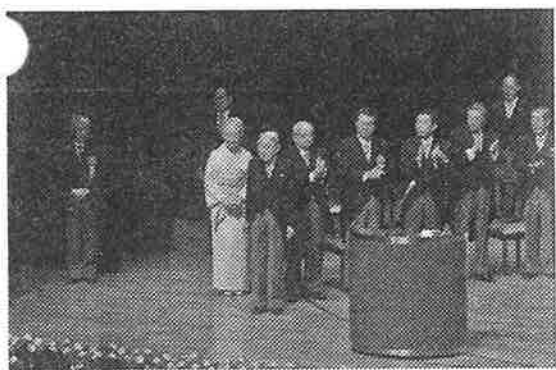
戦後七十年のこの夏は戦争に関する映画やドラマ、書籍、展示等がたくさんありました。八月には、皇太子同妃両殿下が愛子様と共に昭和館をご見学になられ、秋篠宮同妃両殿下は眞子様、悠仁様をお連れになつてご見学されました。皇太子様ご一家のご見学の際は、私もご一緒させていただきましたが、皆様真剣なまなざしで展示をご覧になり、皇太子殿下が愛子様に自らご説明される光景を見て胸が熱くなりました。

現在、全国各地の遺族大会、研修会にお招きいただいたいておりますが、青年部結成に向けた研修が多く、戦没者の孫、ひ孫の皆さんもお話する機会があり、大変うれしく思っています。勿論、遺族会活動のすべてを理解されているとは思っていませんが、真剣なまなざしを見て、「恒久平和な社会の実現」という私たちの願いは必ずや通じるものと確信しております。

ただ、青年部が発足しても実働するにはまだ時間が必要です。また真に遺族会活動をしたと思わなければ看板倒れになりかねません。だからこそ私たち遺児が頑

張つて遺族会活動を行い、孫たちに慰霊碑清掃や、慰霊巡拝などを一緒に体験してもらいましょう。

折しもこの夏日本老年学会は、六十五歳以上の高齢者が二十年前に比べ、十歳若返つたと発表しました。介護や病気にかかることのない自立して過ごせる期間を示す「健康寿命」でも日本は男女とも世界でトップとなりました。まだまだやれるはずです。みなさん、頑張りましょう。



天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ挙行した日本遺族会創立65周年記念式典 = 平成24年9月18日